

愛知県特別支援教育推進計画(愛知・つながりプラン)【素案】に対する要望

特定非営利活動法人

愛知県自閉症協会・つぼみの会

副理事長 岡田 ひろみ

- I. 小中学校、高等学校、特別支援学校全てにおいて、教員の研修の充実と継続を要望します。
  - ア. 小中学校の支援級の教員の質の向上を要望します。

県下の支援級担当教員の特別支援学校教諭資格の保有率が低いことから、資格の無い教員が支援級の担任をすることが多いと思います。支援級の担任から通常級の担任に変わる時に、通常級に在籍する発達障害の児童生徒の指導に対して、支援級の担任経験を生かすことが出来るように、特別支援教育コーディネーター及び学校全体での支援体制を要望します。
  - イ. 通常級の教員に発達障害の研修を要望します。

通常級に在籍する特別の支援が必要な児童生徒に対して、教員は、ユニバーサルデザインの授業等の研修を受け、個別の特性を理解した上での、きめ細かな指導を要望します。
  - ウ. 私立学校を含む高等学校の特別支援教育の推進を要望します。

中学校の通常級や支援級から私立高校・専修学校・定時制高校等へ進学する発達障害の生徒も増えてきていますが、特別な配慮を受けることが出来ない学校が多く、勉強の遅れ、孤立、いじめ、不登校などのいろいろ問題が起き、退学等になる生徒も多数います。私立高校等は愛知県総合教育センター及び、私学振興室と連携して、教員研修や事例検討を実施していただき、指導で困っている教員や生徒本人、また親の支援に繋げていただくように要望します。
  - エ. 高校の教員の中には発達障害に対する理解の少ない人もおり、本人の居場所がなく辛い思いをしている生徒も多いので、講師も含めたすべての教員への研修を要望します。
- II. 特別支援学校の過大化の解消についてのプラン（素案）を早期に具体的に示すことを要望します。

適正な学校規模に移行し、障害特性や個別支援教育計画に基づいた教育を進めていただきたく、また高等養護学校に対する入学希望者も多いことから早期の新設を要望します。

Ⅲ. 高等学校の入学、学校生活支援を要望します。

発達障害の診断はあっても、これまでは高校入学に向けて学校側に告知しないで受験、入学し、問題が起きた時点で学校やコーディネーターに相談するという現状があります。困ったことが起きた時点ではなく、受験以前から個別支援教育計画の作成をして、本人や親が安心して学校生活を送ることが出来るように、中学校の進路指導担当教員への周知も含め、本人・親への支援、理解と説明を要望します。